



2018 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第9戦・10戦

開催場所 鈴鹿サーキット南コース(三重県)
開催日 11月17日・18日
参加台数 OK クラス 27台
天候 晴れ
路面状況 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤奨二 ドライバー:佐藤巧望/水野皓稀
メカニック:伊藤進/橋本剛基
エンジン担当:K SPEED WIN
アドバイザー:井上寛之



2018 全日本カート選手権 最終戦 (鈴鹿サーキット南コース/第9 & 10 戦)

つい先日始まったと思っていた2018シーズンの全日本カート選手権もついに最終戦。ここまで速さは見せるものの表彰台のない二人。鈴鹿サーキットは過去に世界格式大会で3勝と伝統的にINTREPID 得意のコース。また今シーズン初めての西地域での全日本開催となり、佐藤、水野の西地域出身の両選手にとっては表彰台の呼び水にしたところ。木曜日の走行から調子は上々で、佐藤水野ともに公式練習でも上位につける。



佐藤 巧望選手

水野 皓稀選



【タイムトライアル】 佐藤 B 組 4 位(全体 4 位) / 水野 B 組 2 位(全体 2 位)



11 月 17 日土曜日、朝の公式練習からトップタイム付近を出し、調子はかなり良い。ところが、タイムトライアルは後発の B 組。今シーズンはタイムトライアルでは常に A 組にアドバンテージがあり、くじ運を嘆くも いざタイムトライアルが始まると A 組のタイムを早々に B 組が破るこれまでとは逆の現象が発生。佐藤、水野の両選手ともに快走。とくに鈴鹿で経験豊富な水野にとっては、これまでの未経験のサーキットで走ってきた鬱憤を晴らす力走で、一時はトップタイムを出すも僅かに及ばず 2 位。佐藤も 4 位と奮闘し、全体でも同じ順位でタイムトライアルの順位を確定させた。

【第 9 戦 予選】 佐藤 4 位 / 水野 3 位

全日本の最終戦はレースウィークを通じてほぼ同じ天候の毎日で、一時出ていた雨マークもなくなり、気候や天気としては読みやすいコンディションとなった。土曜日の一番最後にスケジューリングされた第 9 戦はそれでも日没間近。日も陰り風も冷たく、おそらくレース中 一番冷えた路面でのレースとなる。予選レースは 1 周のディレイの後にスタート。フロントロウ 2 位スタートの水野は若干スタートで出遅れるものの、スタート直後の 1~2 コーナーで上手く順位を回復。佐藤も上手く続く。レースは大ベテランの佐々木がオープニングラップから順位を上げ、レースをコントロール。早くもオープニングラップから上位 4 台が抜け出す展開になった。上位陣はすべて BS タイヤを履くものの、シャーシの違いやドライビングの違いから、上位陣のなかでも周回ごとに優劣がつく。またコーナーごとに得手不得手があり一進一退。また、明日のレースの事を考えると無理なアタックやタイヤを摩耗させるドライビングは不要。結局、この順位のままゴール。タイムはトップの選手と変わらず、またポテンシャルを発揮することが出来た。



【第 9 戦 決勝】 佐藤 25 位(リタイア) / 水野 23 位(最終周リタイア)



第9戦決勝の舞台は日曜日。この日も朝の公式練習から調子は良く、天候も予報通り。ここまで表彰台のない二人だが、昨日の走りからも期待が持てる。午前 9:30 レーススタート。が、しかしスタート直後佐藤がリタイア……。格好の位置につけながら悔しすぎる戦線離脱となった。佐藤とは反対に水野は鈴鹿での経験からかスタートを難なく決めると 3 コーナーでは大ベテランの佐々木のインに飛び込みトップに浮上。並み居る強豪を抑えて周回をラップしていく。レース序盤、トップグループは 4 台での走行。水野は 5 周にわたりトップをキープするものの、レース巧者の佐々木

にインを突かれた瞬間にトップグループ最後尾に落ちてしまう。レースは中盤を迎え各車タイヤの摩耗が激しくなりレース開始時よりコンマ 4 程ペースを落としながらも周回を重ねる。レース終盤になトップグループは 2 台へと減り、水野は第 2 グループのトップを走行。この順位を守れば表彰台だが、後方からはレース終盤から調子上げる選手が追いつく大混戦の様様。レースはファイナルラップ、直前の最終コーナーでインを突かれて順位を落とした水野が 1 コーナーでパッシングを試みるも接触、グラベルに弾き飛ばされてファイナルラップ、上位ゴール間近でのレースを落としてしまった。

【第10戦 予選】 佐藤 6 位 / 水野 7 位

第9戦の悔しさ残る第10戦の予選は再びタイムトライアルの結果順で、水野がフロントロウ 2 位スタート。佐藤は水野の後ろの 4 位からスタートとなる。スタート直後インスタートの水野と佐藤は一つずつ順位を落とすも、そこまで荒れた展開にはならず、またトップグループが抜け出す展開にもならず、少し間隔をあげながら数珠繋ぎに。ここでもレース巧者の佐々木がレースをコントロール。レース後半から次第に調子上げるグループとの混戦状態になり、水野佐藤ともに若干の順位を落としたところで、上位陣のタイムに上昇がみられトップグループの 3 台が逃げてしまう。レースはそのままチェッカーとなり、佐藤 6 位 水野 7 位でフィニッシュ。ここでも二人は上位を走行するポテンシャルを見せた故、6-7 位という結果はベストではなかったかもしれない。



【第10戦 決勝】 佐藤 8 位 / 水野 19 位(F スポイラー脱落ペナルティ)



いよいよ今年最後のレース。第10戦の決勝は1週のディレイの後 スタート。佐藤、水野の両選手ともまずまずのスタートを決め、順位をキープしながら 3 コーナーへ。その後水野は 11 番手ヘドロップ。レースは上位 3 台を BS 勢が引っ張りながら、ダンロップ、ヨコハマと今シーズンを象徴するかのような混戦で周回。上位 4 台のトップグループから若干離れてセカンドグループの上位に佐藤、またそこからすぐ後ろには水野が序盤の後退を取り返すように順位を挽回。しかしここで次第に気温が落ち始める。気温が低い方が有利なのか、ヨコハマ勢にここでスピードが加わりセカンドグループを掻き

分け上位グループへ、佐藤 水野ともに上手くこの勢いを利用したかったが、なかなか混戦を抜け出せない。レースは中盤から後半へ、佐藤と水野は 6-7 位を走行。しかしファイナルラップで順位を落とし水野 8 位、佐藤 9 位の順でフィニッシュ。水野はフロントスポイラーが若干ではあるがズレており 10 秒ペナルティ。順位は 19 位へ後退。佐藤は 8 位となった。またしても表彰台ならず。しかし第9戦の決勝では全観客の印象に残るオーバーテイクと並み居る強豪を抑えてのトップ走行も行えました。レース後、様々なからより「惜しかった」、「いい動きをしていた」とお声がけもあり、悔しいながらも来年の開幕戦(再び鈴鹿)に向けての手ごたえを掴むレースとなりました。

我々としては表彰台獲得ならず、応援して頂いている方には大変申し訳ない気持ちでいっぱいですが、来シーズンにはさらにパワーアップし再び全日本カートの最高峰クラスに挑みたいと思います。今シーズンも様々なご支援と多大なるご協力。そして温かい応援を賜りまして誠にありがとうございました。



ドライバー 佐藤巧望 コメント



第9戦

手応えが良く予選ではあまり無理をしないようにして、下手なバトルを避け、4位でゴールしました。決勝ではスタートで前の車を抜こうとした時イン側の砂を拾ってしまい、不安定になった所に後ろから当てられてしまい、そのままリタイアしてしまいました。

10戦

こちらも9戦同様に予選で無理をしない走りを心がけていた為に、6番手スタートになってしまいました。決勝は中盤までのペースがとても良かったのですが、終盤になるにつれ、ペースがガタッと落ちてしまい、結果8位になってしまいました。今年最後のレースでベストを尽くしましたが、もう一歩足りませんでした。今年は初戦の骨折もあり、欠場したレースも多々ありましたが、個人的に成長できた1年でした。応援して下さいました皆様、ありがとうございました。

ドライバー 水野皓稀 コメント



今回のレースでは鈴鹿サーキットということで経験もあり、自信を持って走れたコースでした。

9戦目の決勝では終盤にタイヤマネジメントができずにペースが他の選手より遅くなってしまい最終的にクラッシュしてリタイアしてしまいました。第10戦の決勝ではアウトラップが遅くて順位を下げたままそこからなかなかペースを上げることができずにレースを終えてしまいました。

今回のレースで感じたことはスピードはあったが、タイヤのマネジメント力の少なさが目立ったレースでタイヤの重要性を一番体感できたレースでした。一年間応援して下さった皆様ありがとうございました。

INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



今年最後のレースが本拠地に近い鈴鹿ということで、入念にテストを重ね万全な体制で挑んだ大会で随所に良いパフォーマンスを示せたのですが、最後に繋がる結果に結びつかせる事が出来なかったのが、非常に悔しいです。この悔しさをバネに来季より強くなってここ開幕の地に乗り込みたいと強く思っております。今回チームの地元が近いと言う事もありまして、たくさんの方々に応援して下さいました事を大変感謝申し上げます。また多大なるご支援とご協力して下さいました企業様にもお礼申し上げます。

